

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272701079		
法人名	特定非営利活動法人双松福祉会		
事業所名	グループホームわらび苑		
所在地	青森県三戸郡階上町大字角柄折字餅栗久保4番地1		
自己評価作成日	令和元年6月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>周囲の環境が良いことが特徴であると考え、それを活かしたレクリエーションを行っています。また、ボランティア活動が盛んなため、入居者の方々の生活を側面から支えてもらっています。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自然豊かな緑に囲まれ、玄関前に野菜や草花を植え、その成長を楽しむことができる環境に立地している。「地域と共に歩んで行く」という理念のもと、地域との連携を大切にし、ボランティアや自主消防隊との協力体制を構築し、ホームの環境整備や行事等への参加協力を得ている。デイサービスが併設しており、送迎バスを活用した外出支援を行っている。避難訓練の際は必ず消防署が立会い、避難経路や安否確認に対するアドバイスを受け、常に改善に努めている。また、入居前のかかりつけ医を把握し、利用者や家族が希望する医療機関の受診を支援している。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央三丁目20番30号		
訪問調査日	令和元年7月23日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを意識した理念を作成し、職員の意識付けを行っているほか、職員個々の目標を掲げ、励行している。その結果、地域住民とも繋がりが深い。	笑顔、心かよう会話、四季を楽しむという「三つの心」のほか、地域密着型サービスの役割を反映させた「緑豊かな地域に囲まれ 地域の方々と共に歩いていく」という理念を掲げ、玄関前やホールに掲示し、日々の業務に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア組織を作り、周辺の環境整備や利用者との昼食会等を通じて交流を図っている。	地域住民による「ボランティア双松会」、「自主消防隊」を組織し、環境整備や行事への参加協力等の体制を構築している。また、地域の小学校行事への参加や保育園等の訪問もあり、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア組織の活動を通して、認知症の方々の生活を側面から支援していただいている。年1回は地域住民と利用者が会食を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではヒヤリハット報告や看取りを含めた深刻な問題等を議題として、その都度、適切な助言等をもらい、活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、家族代表者や地域住民代表、有識者、町担当課職員が参加している。日々の取り組み報告のほか、ヒヤリハットや困難事例、身体拘束等の状況を報告し、それぞれの立場からの意見をサービス向上に活かすように努めている。	運営推進会議で、「自己評価」及び「外部評価」の結果、「目標達成計画」、「サービス評価の実施と活用状況」を説明しておりますが、毎回会議録を作成し、議題と寄せられた意見等を記録に残すことが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて議題に関わらず、その都度、アドバイスや助言をいただいている。	町担当課職員が運営推進会議に毎回出席しており、ホームの取り組み状況について定期的に情報交換を行っている。また、地域包括支援センターには困難ケースの相談を随時、行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言と称し、各所に掲示して、職員に啓発している。管理者は身体拘束を行わないよう、職員に周知しながらその都度、職員と話し合い、より良い方法を探している。定期的に身体拘束防止委員会を行っている。	「身体拘束排除宣言」、「身体拘束廃止に関する指針」を定め、身体拘束を行わないことや、やむを得ず拘束をする場合の対応について定めているほか、法人全体の「身体拘束排除委員会」を3ヶ月に1回開催し、拘束の状況について確認し合う場を設けている。また、日中は玄関の施錠をせず、利用者の外出傾向を察知した場合は、職員が付き添う等の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム長が研修へ参加し、虐待を行わないように注意を払っている。今後、職員にも積極的に研修へ参加させたい。また、コンプライアンスの会議を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム長が研修に参加して学んでいる。前例はないが、必要であれば関係機関(地域包括支援センター等)に相談を行い、支援したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には十分に説明やアセスメントを行い、双方が納得した上で決めている。退居に関しては利用者や家族の心情に配慮しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は家族の意見や要望を聞き入れやすい関係づくりをしている。また、利用者の健康状態や生活状況を定期的に報告している。	事務所前に意見箱の設置や行事へ家族を招待する等、家族が職員に要望を話しやすい雰囲気づくりに努めているほか、月1回、家族に近況等を記したお便りを送付している。家族等から意見が寄せられた場合は、速やかに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に連絡会議を行い、各事業所の代表者が問題点や近況を話し合っている。	月1回、ユニット毎に職員会議を行っており、職員の意見を聞く機会を設けている。職員の意見は、月2回開催している法人の管理者会議で報告、検討する体制となっている。また、利用者と職員の馴染みの関係に配慮し、できる限り異動を行わないようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不定期であるが昇給を行っている。しかし十分とは言えず、今後は福利厚生充実や人事考課に取り組んでいきたい。資格取得者には特に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と思われる研修には積極的に参加しているほか、内部でビデオ研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区の協議会が主催する研修等へ積極的に参加している。グループワーク等を通じて同業者と交流を図っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは本人の要望をしっかりと傾聴することが重要と考え、実践している。また、家族や関係機関から事前にアセスメントをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者はもとより、家族の要望もしっかりと傾聴することがアセスメントの第一歩と考え、実践している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のニーズを把握するように努め、あらゆる資源の活用を視野に入れて入居の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々のできる事を把握し、楽しみながら職員と共に手作業やレクリエーションを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や場合によっては電話のやりとり等で家族と意思疎通を取っている。できるだけ家族の要望に応えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容所や病院への付き添い介助等、できる限りその方の希望に沿うようにしている。また、馴染みの友人等が面会に来た時は、再訪を促している。	かかりつけ医や馴染みの理美容院を把握し、同行支援や家族との外出を支援している。また、友人等が訪問した際は積極的に受け入れ、交流を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格や嗜好、趣味を把握するように努めている。また、孤立やトラブルを避けるため、食事席の変更等、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際には、サマリー等で退居先に情報を提供している。また、退居してからもその方の容体の確認等、家族とやり取りをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的カンファレンスをして意見交換を行い、より快適に暮らせるよう、定期的に検討している。	職員は日々の関わりの中で、利用者の意向を把握するように努めている。把握が困難な場合は、表情や行動から思いを汲み取るように努めると共に、家族から情報を収集している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居担当者はアセスメントを十分に行い、予備知識として職員に周知している。また、入居後も定期的カンファレンスを行い、評価を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	口頭や記載による申し送りにより、職員間でその方の心身状態の変化に注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的ケアカンファレンスを行い、職員間で意見交換をしてより良いケアの方向性を模索している。また、毎月の職員会議でも、利用者個々の課題を把握して、ケアに活かしている。	介護計画作成時には、できる限り利用者や家族の意見を確認すると共に、ケアカンファレンスを開催し、担当職員から意見を聞いて作成している。介護計画は毎月モニタリングを行い、4ヶ月毎に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的職員間でカンファレンスを行い、利用者個々のケアの見直しを行うほか、介護計画にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通帳の預かりや家族の支援が希薄な方の今後について行政と相談を行う等、側面の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源とは言えないが、地域の方によるボランティア組織の支援で夏祭りの手伝いや周辺の環境整備により利用者の生活を支援していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院に限らず、利用者が馴染みの病院を受診できるようにしている。また、受診介助も行っている。	入居前のかかりつけ医を把握しており、基本的には職員が受診を支援しているが、家族等に通院していただくこともある。受診後は、家族にお便りで報告し、情報共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	記載や口頭による申し送りにより、職員間で情報の共有に努めている。また、適時、看護師から支持を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院等が生じた場合には、日々の健康状態等、できる限り情報を提供している。また、適時、見舞いへ行き、容体等の確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化の指針を説明し、書面に合意をいただいている。また、医療の依存度が増してきた場合等、その都度、家族と話し合いを行っている。	「健康管理に関する指針ならびに重度化した場合に係わる指針」を定め、入居時に家族へ説明し、同意を得ている。終末期の対応については、医療機関や家族、職員の三者で方針を話し合い、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行うAED及び心肺蘇生の研修には、積極的に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方による自主消防隊を結成して、定期的に夜間を想定した消防訓練を行っている。	消防署の立ち合いのもと、夜間を想定した避難訓練を年2回実施しており、避難方法について助言を得て改善を図っている。また、地域の自主消防隊による協力体制を築いている。災害発生時に備えて「自然災害防災マニュアル」を作成し、保存食等の備蓄リストを定めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症のレベルに関わらず、その方の尊厳を大切に声かけを行っている。	利用者の意向を確認し、名字や名前呼びかけをしている。トイレ誘導や入浴時は羞恥心に配慮し、個別に声かけを行っている。また、利用者への声かけや言葉遣いに問題がある場合は、職員同士で注意し合うように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は自分で意思表示ができない方でも、日々の表情や行動を観察することで、その方の喜怒哀楽を読み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別に柔軟に対応したいと考えるが、利用者の重度化に伴い日課に沿った対応になりがちである。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容には気を配っている。特に口周りや整髪に気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の有する力に応じて、食事に限らずリネン等の作業も行ってもらっている。	利用者の好みに配慮した献立を、職員が交替で作成している。野菜の収穫や調理の下ごしらえ、食器拭き等、利用者の状況に応じた作業を一緒に行っている。また、誕生日のケーキや回転寿司での外食等を楽しむ機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を把握し、適時、主治医に上申して高カロリー栄養食等を補食している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔内ケアを確実にしている。必要に応じて、往診時に歯科医から助言を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できる限り自立を促しつつ、トイレ誘導を行っている。また、定期的に評価を行っている。	利用者一人ひとりの排泄状況を記録してパターンを把握し、事前誘導や使用する尿取りパッドの種類について検討等を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく献立を作る際には、バランスの良い献立作りに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴は週2回であり、その方の健康状態に応じた入浴の仕方を行っている。	普通浴槽と特別浴槽があり、週2回、利用者の状況に応じた入浴を支援している。一番風呂が好きな利用者や入浴する利用者同士の相性に配慮している。また、入浴したがない場合は声かけの工夫や清拭、入浴日の変更等、対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の状態に合わせて、日中の臥床、離床時間を決め、日中の疲労感に配慮しつつ夜間の安眠を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の内服薬の情報について、現病歴と共に個人記録へ記載して、一目で分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアカンファレンスや日々の気づきをノートに記載して、職員間で利用者の状態像を把握し、日々のケアに役立てている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に季節に合わせたドライブ等、外出の機会を設けている。また、家族の参加も募っている。	日常の散歩や季節毎のドライブ等、外出の機会を設けている。日々の会話を通じて、利用者がどこに行きたいか、何を食いたいかを把握し、行き先を検討している。また、外出行事は家族にも案内し、利用者と一緒に楽しめるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の有する力に応じて、柔軟に対応している。自己管理する場合には紛失や盗難防止の観点から、管理者が定期的に所在確認を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の支援や手紙を代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはなるべく馴染みの物を持ちこんでいただいている。廊下等の動線上には障害となる物を置かないようにしている。	畳の小上がりや木製の家具、ソファ等を設置し、家庭的な雰囲気に配慮している。ホールは天井が高く、天窓から自然光が差し込み、明るく開放的であり、温・湿度計を設置して快適な空間となるように配慮している。また、利用者が季節を感じられるような作品や行事写真を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に利用者がテレビ観賞等をするスペースがあり、そこで利用者が寛いでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を考慮しつつ、できる限り、馴染みの物を持ち込んでいただけようようにしている。	居室には洗面台とベッドを備え付けており、利用者は座椅子や衣装ケース、仏壇、家族写真等、愛用品を持ち込んでいる。持ち込みが少ない場合は、利用者の希望を聞きながら、行事写真や手作り作品を飾り、居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上には障害となる物を置かないようにしている。		